

ながまちえきひがし

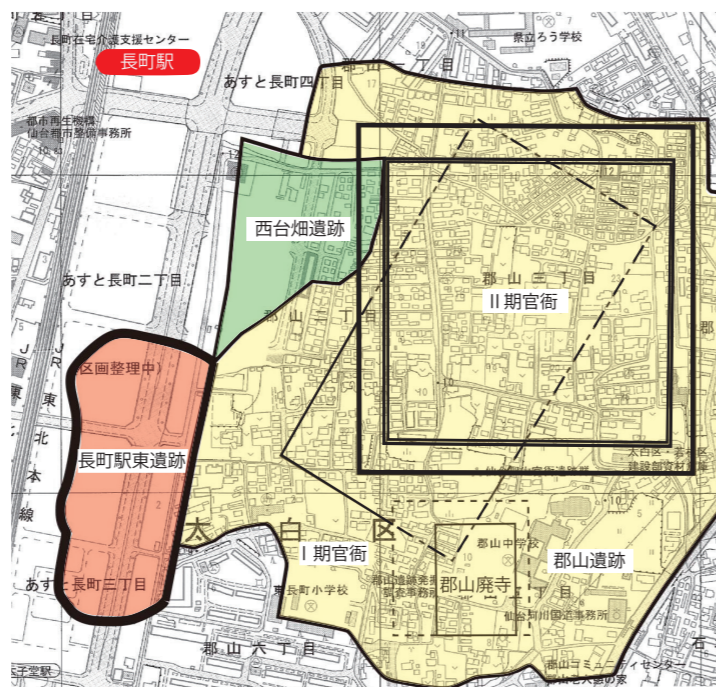
長町駅東遺跡第14次発掘調査 遺跡見学会資料

～郡山官衙（役所）に関わった人々の集落の様子～

仙台市教育委員会文化財課
令和元年12月21日（土）

1. 調査の概要

- 遺跡名 長町駅東遺跡（第14次）
- 所在地 仙台市太白区あすと長町3丁目
- 調査原因 店舗建設工事に伴う本発掘調査
- 調査面積 約5,400㎡
- 調査主体 仙台市教育委員会
- 調査担当 生涯学習部文化財課調査指導係
株式会社シン技術コンサル
- 調査期間 令和元年7月2日～令和2年3月（予定）



第1図 長町駅東遺跡と周辺の遺跡

店舗建設工事計画に伴い、仙台市太白区あすと長町にある長町駅東遺跡で第14次の発掘調査を実施しています。現在までの調査で、飛鳥・奈良時代の集落の様相がわかりました。

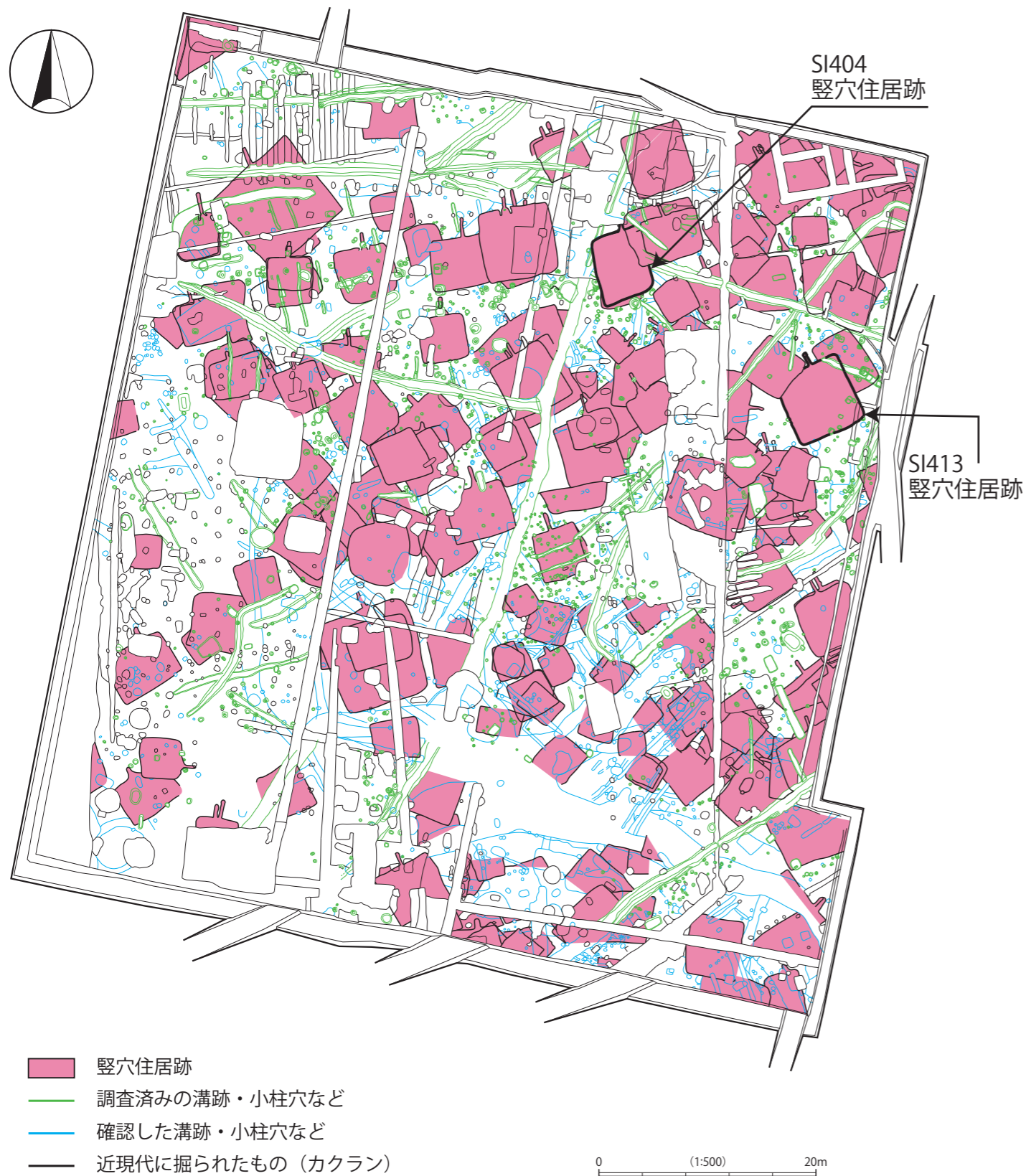
2. あすと長町地区にある遺跡の概要

あすと長町地区には、長町駅東遺跡と西台畑遺跡、郡山遺跡があります。長町駅東遺跡と西台畑遺跡では、発掘調査が平成10年（1998）から始まり、7世紀前半から8世紀初め頃の竪穴住居跡が合わせて700軒以上見つかっています。郡山遺跡では、昭和54年（1979）から始まった発掘調査によって、7世紀中頃から8世紀初め頃にかけて中央政府による支配の拠点となる役所（郡山官衙）が造られたことがわかりました。また、これまでの調査から長町駅東遺跡と西台畑遺跡の集落には、郡山官衙の造営や運営に関わった人々が生活していたと考えられています。今回は長町駅東遺跡で見つかっている集落の中心部の発掘調査を行っています。

また、長町駅東遺跡では弥生時代の竪穴住居跡や土器埋設遺構、土壌墓、水田跡も見られています。仙台平野において弥生時代の集落の様子を考えることができる貴重な遺跡です。



第2図 長町駅東遺跡調査区合成図



第3図 第14次発掘調査 遺構配置図

3. 長町駅東遺跡で発見されていた特徴的な遺構について

●材木列跡・大溝跡 (区画施設)

平成15・16・20年の調査で見つかった材木列跡と大溝跡は、今回の調査で見つかった集落域と郡山遺跡でみつかった役所(官衙)を区画する施設と考えられます。

今回の調査区の北東側にある交差点の地下には材木列と大溝が途切れる場所が見つかり、そこが集落の入り口であったと考えられます。



4. 今回の発掘調査成果について

●竪穴住居跡

竪穴住居跡は150軒以上発見されています。そのほとんどが2軒以上重なって見つっています。長町駅東遺跡の過去の調査では最大13軒の竪穴住居跡が重なっている例もありました。

竪穴住居跡からは、調理するためのカマド、そこから出る煙を出すための煙道、食料などを保管する貯蔵穴、建物を支える柱を立てる柱穴、壁際に板などの壁材を立てるための周溝などが見つっています。竪穴住居跡の特徴として、煙道が北側を向いたものが多い点が挙げられます。

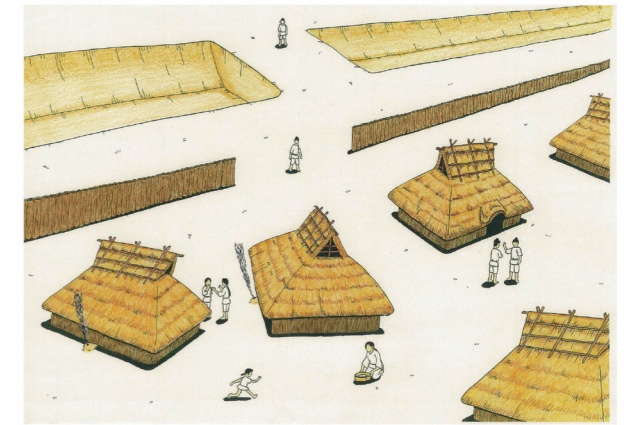


写真2 集落復元想像図(北西から)

●出土遺物

出土遺物はこれまでに収納箱で60箱以上出土しています。現在のところ土師器や須恵器が多く出土しており、弥生土器も少量出土しています。土器のほかにも、糸を紡ぐための道具である石製の紡錘車や弥生時代の木を削る道具である扁平片刃石斧などが出土しています。

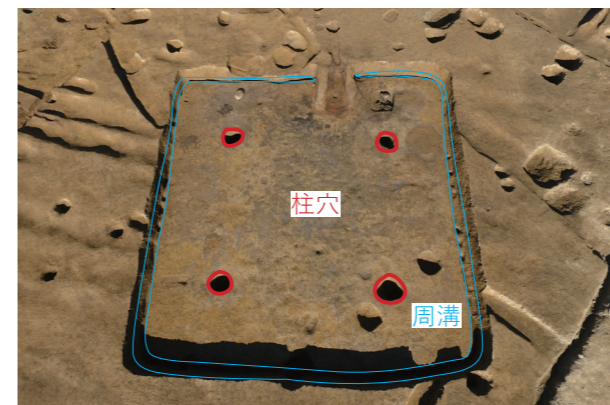


写真3 SI413 竪穴住居跡(南から)



写真4 カマドと貯蔵穴(南東から)